コロナ禍での音楽分野の「やりくり」授業
～「楽譜を読む力（知覚）」が感受に与える影響Ⅲ～

横地美奈
鳥取大学附属中学校　音楽科分野
E-mail: yokoji-m@tottori-u.ac.jp

YOKOJI Mina (Tottori University Junior High School): **Classes in the music field under the COVID-19 related crisis. — Effect of "ability to read music scores (perception)" to sensitivity. (part Ⅲ).**

要旨 － 赴任してからの2年間は,コロナ対策と並行して「できること」が絞られ,歌でもマスク着用など特殊な条件下での指導を余儀なくされてきた。歌やリコーダーの演奏が制限された分,楽譜を読む力を付けることに力を注いできた。「楽譜が自分の力で読めるようになったら音楽の世界が広がるのではないか。」という仮説を立て,この2年間研究してきた。そして,研究テーマとして取り組んできた「楽譜を読む力（知覚）が感受に与える影響」について,3年目の節目として検証してみることにした。プロジェクト3年目には,生徒へのアンケートを実施し,この3年間の音楽観や生活の変化,楽譜を読む力が生活にどのような影響を与えたかをまとめた。アンケートの結果,楽譜を読む能力の向上は,音楽を歌うこと,演奏することの楽しみを増やし,日常生活の中で音楽を愛する学生を増やすことに大いに役立っていることがわかった。

キーワード コロナ対策,問題解決,試行錯誤,読譜

Abstract — For the past two years since I was assigned to this post, the "things we can do" have been narrowed down in tandem with measures against coronas, and I have had to teach under the special conditions such as need of wearing mask even in singing, etc. Having had restrictions on singing and playing recorders, I have poured my effort to raise student's skills on reading music scores. In the third year of the project, I conducted a questionnaire to students and summarized their changes in musical perception and life and how the ability to read music has affected their lives during past three years. The questionnaire showed that the increase of student's ability to read music scores has enlarged their enjoyment in singing or playing music and it helped much for the increase of students who love music in their daily lives.

Key words — Corona measures, problem solving, trial and error, reading scores

１．はじめに

本校に赴任して3年目となった。最初の年は,赴任してすぐに休校になり,生徒の実態を知らないまま,コロナ対策に追われることになった。コロナ対策をしながらの授業がスタートし,暗中模索状態だった。なるべく飛沫が飛ばない授業として,2年生は「アイーダ」の鑑賞から始め,1,3年生は楽譜の読み方を確認することにした。以後,結果的に同じような状態が続いたので3年間そのやり方を続けている。今年は校歌の4部合唱の楽譜を見つけたことをきっかけに,校歌の生徒に与える影響について調べる予定で研究を進めていたが,やはり歌うことがなかなか難しかったので,今までの研究を続け,検証してみることにした。

本校に赴任する前は,楽譜を読むことに抵抗を覚える生徒もいて,耳から聴いた音をそのまま覚えて歌わせていた。しかし,楽譜が読めるようになれば,もっと音楽が楽しくなり,表現に深みが増すのではないかと常日頃思っていたので,本校に赴任したのとコロナ渦をきっかけに実践してみた。私自身,音楽の面白さのひとつは楽曲分析だと思っている。楽譜には,作曲者のメッセージがちりばめられており,読めば読むほど,音楽が深みを増して彩り豊かに装飾されていくような気がする。もし,生徒達が自分で楽譜を読み取れるようになれば,もっと「音楽の楽しみ」を知って,生涯音楽を生活の一部としながら人生をより豊かに生きていけるのではないかと思った。まずは,単純に「音楽って楽しい。」

と思ってもらえる授業をすることを目標とし,アンケートをとって自分の授業を生徒がどう感じているか把握することに努めた。更に,今年は赴任して3年目となり,1年生から続けてきた楽譜を読み取り,作詞・作曲者のメッセージを受け取る学習の成果を検証し,今後につなげていきたい。

平成29年告示の中学校学習指導要領（文部科学省 2017）には,音楽科の目標として,(1)「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して,音楽的な見方・考え方を働かせ,生活や社会の中の音楽,音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成すること」というのが示されている。「音楽的な見方・考え方」というのは,「音楽に対する感性を働かせ,音や音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え,自己のイメージや感情,生活や社会,伝統や文化などと関連付けること」であると考えられる。「音楽に対する感性」とは,音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取る」ときの心の働きを意味している。音楽に対する感性を働かせることによって音楽科の学習は成立し,その学習を積み重ねることによって音楽に対する感性は豊かになっていく。「音や音楽を,音楽を形作っている要素とその働きの視点で捉え」は,音や音楽を捉える視点を示している。生徒が,音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして自ら音や音楽を捉えていくとき,生徒の音楽に対する感性が働く。したがって,音楽に対する感性を働かせることによって音楽科の学習は成立し,その学習を積み重ねることによって,音楽に対する感性は豊かになっていく。音楽科の学習では,このように音や音楽を捉えることが必要である。そして,その支えとなるのが従前の〔共通事項〕ア「音色,リズム,速度,旋律,テクスチュア,強弱,形式,構成などの音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し,それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受すること」である。

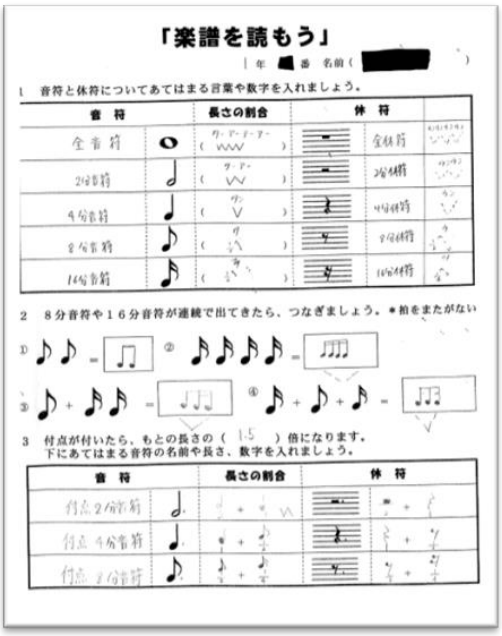
「楽譜が読めなくても音楽は楽しむことができる」という言葉を聞く。確かにそれは間違ってないと思う。聴く喜びも,奏でる,歌う喜びも,楽譜を読めなくても味わえる。では,楽譜が読めるようになると,どう音楽の楽しみ方が変わるのだろう。私は楽譜から「作曲者のメッセージ」を受け取ることができる,と考えている。創られた物には全て創った人の思いが込められている。それを読み解くことで,時代を超えて様々な思いに触れ,新たな楽しみも湧いてくるのではないか,そう思い,「読譜」を学習に改めて研究テーマとして取り組むことにした。

２. 研究の方法

楽譜を読むことを意識した授業は継続して続けていく。更に,今年は過去3年間のデータを比較し,3年生を研究対象として推移を検証する。そして,過去3年間,生徒の現状や成長過程にあった楽譜を活用する授業を実施し,音楽への関心が高まったかアンケートをとって,検証してみた。アンケート実施には石村・石村(2017)を参考にした。

２－１「楽譜を読もう」の取り組み

１年生は,引き続き，楽譜を読む授業を年度当初に行う（詳細は本校紀要５３号を参照)。まずは,小学校 2 年生の学習「音譜の読み方」から遡って復習する（図１,図２)。リズムの読み方が定着するよう,教科書を元に創作活動を取り入れた（図３，４)。最終的には,昨年度の３年生と同じく,簡単なリズムを聞きとれるところまでを目標とし,テストでどの程度理解できたか,確認した。２，３年生は教科書の曲や文化祭の合唱練習で,楽譜を読むことを意識させながらどのように曲に合った表現を付けたらよいかを考えさせた。そして,楽譜がどの程度読めるようになったか,また読めるようになったことで音楽に対する意識の変化があったか,楽譜を活用してどう表現に活かすことができたか３月に調査する予定である。


「楽譜を読もう」

1　音符と休符についてあてはまる言葉や数字を入れましょう。

音符		長さの割合	休符	
全音符				全休符
2分音符				2分休符
4分音符				4分休符
8分音符				8分休符
16分音符				16分休符

2　8分音符や16分音符が連続で出てきたら、つなぎましょう。＊拍をまたがない

3　付点が付いたら、もとの長さの（ 1.5 ）倍になります。
下にあてはまる音符の名前や長さ、数字を入れましょう。

音符		長さの割合	休符	
付点2分音符				
付点4分音符				
付点8分音符				

図１１年生の最初は小学校の内容から復習

図２　毎時間音譜の読み方を掲示

図３ 友達の創作したリズムを見ながら叩いてみる

図４　教科書のリズム読み方を確認している

また,１年生の最初の鑑賞の授業では,音符を読む学習の後,楽譜を読む学習の入り口として映画音楽である「ジョーズ」のテーマを題材とし,「音楽を形づくっている要素」である「音色,リズム,速度,音の高低」をキーワードとして楽譜に注目してみんなで分析した。そこに,作曲者であるジョン・ウィリアムズがどのような仕掛けをして映画の内容を盛り上げているのか,感じ方にどのような影響があるか話し合い,その様子を研究発表大会で公開した（図５～図６）。クラスごとに,楽譜を読み込みながら様々な意見が出ていた（図７，８）。

図５　７月の研究発表大会の授業の様子１

図６　７月の研究発表大会の授業の様子２

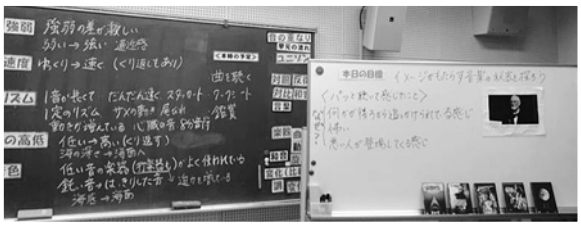


図7　　他のクラスでの授業の板書1

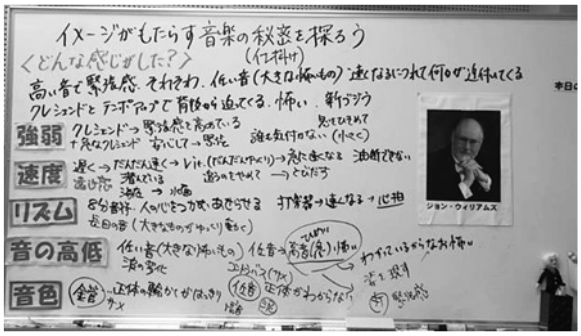


図8　　他のクラスでの授業の板書2

２年生では,１年生で習った知識をもとに,合唱曲の楽譜を読み,どのように表現をしていたらより人に伝わる合唱になるか,考えさせた。また,鑑賞曲では使われている楽器の音色や反復,転調,構成などに着目し,それがどのような効果を挙げているか話し合った。

３年生では,過去に習ったことをもとに,「心のうた」や,「ブルタヴァ（モルダウ）」,合唱コンクールの曲を通してリズムや拍子,調,歌詞,調,楽器の音色などに注目してその効果についてクラスで話し合わせた。合唱コンクールでは授業で見本を見せつつ,自分たちで曲を楽譜から読み取り,表現力を高めるよう指導した。

３．結果と考察

この３年間「知覚」の意味のひとつを「楽譜を読む」ことと解釈し,「楽譜を読めるようになると感受にどのような影響を与えるか」という研究を進めてきた。そのために,「音符の読み方」の学習からスタートした。小学校の低学年を担任した経験も,小中一貫校に勤めて小学生の音楽の授業を受け持った経験があったため,小学生に教えるような感じでかみ砕いて教えていくことができた。特に本校では,様々な校区から生徒が通学しており,小学校の教科書に沿って音符の読み方を習った生徒もいれば,ドレミの読み方も知らない生徒もいて,全てゼロにリセットして教えていくことが必要だった。記譜ができると力が付くと思い,１年生の最初に学習した後,リズムをたたいて記譜させてみたり,テストに出題してみたりした。

もとから楽譜が読める子も含めて,毎年 8 割以上の生徒は楽譜がだいたい読めるようになった。しかし,積み重ねないと忘れるので,学習の度に楽譜を見て気付いたことなどを発表させたり,話し合ったりする機会を設けるように意識した。３年生は,やはり３年間の積み重ねがあり,最後の合唱コンクールではクラスで楽譜をしっかり読み取り,そこから作曲者や作詞者の思いを想像し,イメージをふくらませて共通理解し,こちらの想像以上の表現を創っていたことに驚いた。生徒達が曲を自分のものにしている姿を見て,心の底から感動し,その歌っている歌詞の風景が目の前に見えてくるような錯覚さえ覚えた。

そして,アンケートをとり,結果を見て驚き,納得した。学年があがるにつれ,音楽を好きな生徒が増えていた。１年次,２年次,３年次と「好き」は「47%→50%→60%」,「どちらかというと好き」は「20%→25%→32%」と増え,「どちらとも言えない」は「19%→19%→0%」,「どちらかというと嫌い」は「8%→5%→0%」,「嫌い」は「6%→1%→0%」に減っていた（図９,図 10,図 11 参照）。

３年間の学習の積み重ねの結果として,３年次には,全員が「好き」「どちらかというと好き」と答え,「どちらともいえない」「どちらかというと嫌い」「嫌い」が 0%になっていた（図 11）。

【2020 年度入学生対象 意識調査3年間の推移】

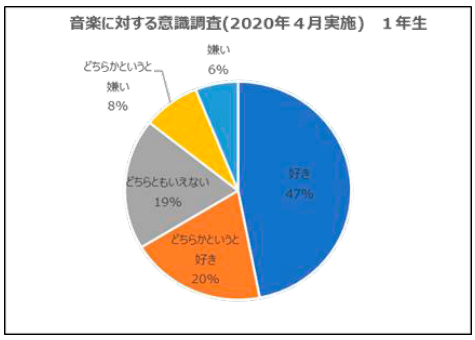


図９（1 年次）134/139 名　2020 年 4 月実施

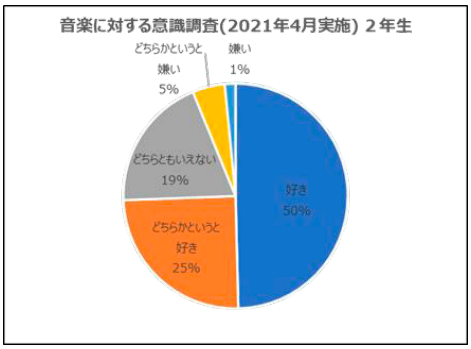


図 10　（２年次）　131/138 名 2021 年 4 月実施

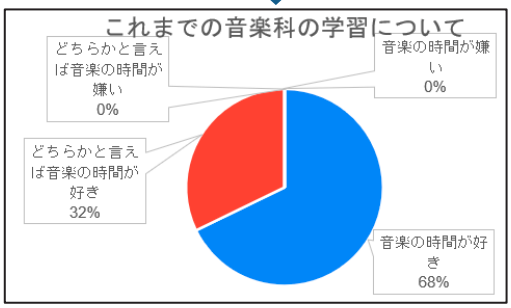


図 11　（３年次）　118/137 名 2022 年 12 月実施

次に,過去の3年生と比較してみた。

〈2018 年度入学生〉

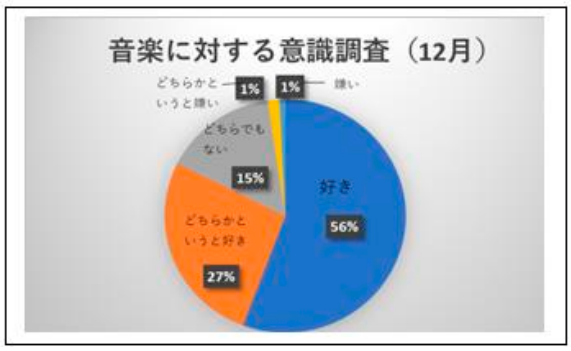


図 12　2018 年度入学生徒対象　131/136 名
2020 年 12 月実施

3年前の3年生と比較してみると(図 11 と図 12),好き(3年前 56%→今年 67,8%),どちらかというと好き(3年前 27%→今年 32.2%) ,どちらかというと嫌い→(3年前 1%→0%),嫌い(3年前 1%→今年 0%)と変化し,3年生の12月時点で音楽が好きになった生徒が増えたことがわかった(図 11, 図 12)

次に,楽譜が読めるようになったか３年前の３年生と比較してみた。

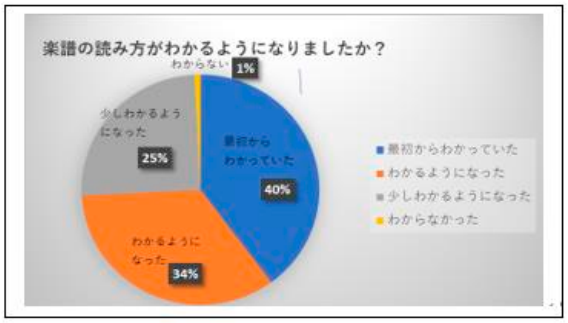


図 13　2018 年度に入学した３年生対象 131/136 名
2020 年 12 月実施

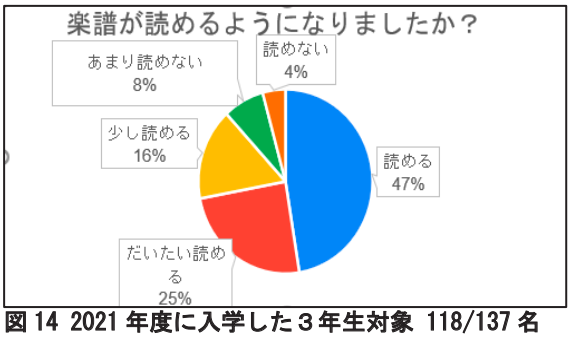


図 14 2021 年度に入学した３年生対象 118/137 名
2022 年 12 月実施

今年のアンケート結果では,読める（47.5%）,どちらかというと読める（24.6%）,何となく読める（16.1%）,あまり読めない（7.6%）,読めない（4.2%）となった。これについては,問い方が異なっているのとアンケートに答えた人数が違うため,はっきりとは言えないが,２年前と比べると,わからない生徒が１%→4.2%に増えたことがわかる（図 13,図 14)。これは,昨年度も課題として挙げており,わからないものをそのまま積み残してきたという反省点である。

また,次は楽譜を読む学習が「役に立った」

と感じているかどうか３年前と比較してみた。

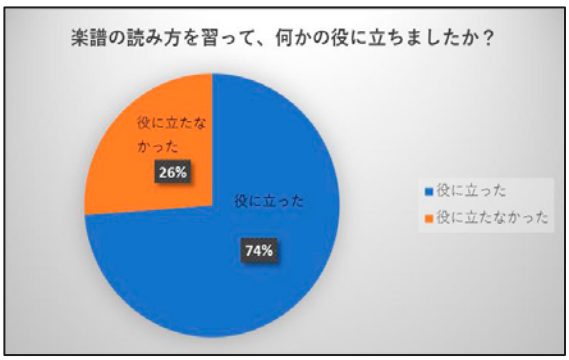


図 15 2018 年度に入学した３年生対象 130/136 名
2020 年 12 月実施

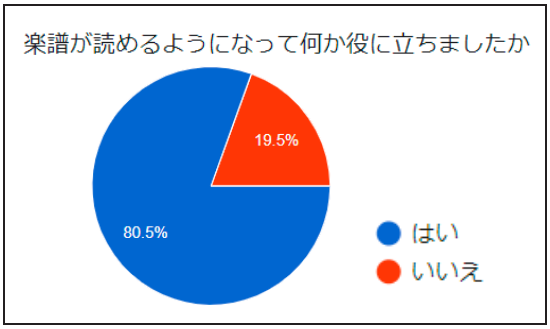


図 16 2021 年度に入学した３年生対象 118/137 名
2022 年 12 月実施

３年前の３年生と比較した結果,「楽譜を読む学習は役に立った」と感じた生徒が７４％→８０．５％に増加した。(図 15, 図 16)

「役に立たなかった」という生徒が約 20%もいたことは,自分の授業の仕方を振り返る必要があると反省している。

ちなみに,「役に立った」という生徒は,理由を以下のように述べている。

〈授業の中で役に立った〉

- **合唱練習の時に,音程やリズムがとりやすくなり,他のパートも理解しやすくなった。**
- **歌うときにどのようなところを大切にしていくべきか判断できるようになった。**
- **曲を聴いたり歌ったりするとき大事なポイントに気づいた。**
- **合唱練習で音程やテンポが分からなくなった時,楽譜を見て改善できた。**
- **ただ音符を読むだけでなく記号にも注目することでその曲への理解が深まった。**
- **合唱の時にこの音はどのような大きさで歌えばいいのか,また間の取り方などを知ることができた。そして今まで以上に音楽を楽しむことができるようになった。**
- **最初メロディーが分からなくても楽譜が読めるようになったらなんとなく曲の構想を理解することができる。**

〈授業以外で役に立った〉

- **趣味で音楽鑑賞をしていて読めるようになりもっと楽しくなった。**
- **ピアノが弾けるようになった。**
- **好きな曲がどのようなメロディー進行なのかどの解説がなんとなくわかるようになった。**
- **幼児に楽譜を教えられるようになった。**
- **いろいろな曲や歌の楽譜が読めるようになった。**
- **自分が弾いてみたい曲が,曲を聞かなくても楽譜があるだけで弾ける。**
- **家で印刷した楽譜とかも読めるようになった。**
- **初めて聞く曲でも歌える。**
- **どんなメロディーか忘れた曲も,楽譜を見るとリズムと音程を把握して思い出すことができ,知らない曲でもイメージが掴めるようになった。**

上の感想を読むと,楽譜を読みとることで学習に生かされ,また自分で好きな曲を楽器で演奏するなど,生活の幅も広がった生徒もいた。

また,今年の３年生には,３年間楽譜を読み,作詞者や作曲者のメッセージを読み取っていくことを意識しながら授業を進めてきた結果。音楽に対してどういう印象を持ったか知りたかったので,以下の問いを付け加えてみたところ,たくさんの回答が返ってきた。

〈音楽科の学習を通して,どのような力が身につけられると思いますか？〉

楽しむ

・音楽から伝えたいことを読み取ったり音楽で伝えたりすることやみんなで音楽を演奏することが楽しめる。
・映画やアニメなどを見る時に,音楽にも注目してさらに楽しめる。
・音楽の種類や楽器に触れることで,様々な音楽のバリエーションを体験することができる。

協調性

・合唱をすることによってみんなで協力する力。
・協調性や,人の心を考える力,わかりあう,わかちあう力。
・想像力,協調性,歌詞などから人の考えを感じとる力。

視野の広がり

・さまざまな種類の音楽に触れることで,物事に対する見方が変わりそう。
・身の周りにあるものの魅力や良いところを見つけられるようになる力が身につく。
・物ごとをいろいろな角度から見る力・趣味として音楽を聴くときにいろんな視点から聞くことができる。
・授業では,普段触れる機会のない音楽に観たり,聴いたりしました。また,音楽の基礎の学習で学んだことが身につくと,街中の何気ない音楽にも,使われている曲調や工夫が少し分かるようになりました。
・音楽の授業をする事により,多くの芸術がわかるようになると考えた。理由はこれまでの授業を通して鑑賞などで,その作品がどのような思いで作られたか,その作品にどんな思いを込めて作ったのかなどを考えて作品の鑑賞にあたったから。

つながる

・音楽は日本だけでなく世界に共通するので,違う国の人と交流できる力が身につくと思う。

思考力

・ただ音楽を聴くだけでなく,その音楽について深く考えることができるようになると思う。
・身の回りで流れている音楽により関心を持って生活し,新しい事を知ろうとする力。
・音楽を通して,世界の見方が変化し,幅広い価値観を身に付けることができると思う。
・世の中の人と音楽を通して繋がる力。
・音楽は日本だけでなく世界に共通するので,違う国の人と交流できる力が身に付くと思う。

豊かに生きる

・音楽を聴いたり,歌ったりすることを通じていろいろな人と心の交流ができたり,心が豊かになったりすると思う。
・人生を音楽という一種の娯楽で豊かにする力。
・歴史上の偉人が築いてきた音楽には今も昔も変わらない良さを感じられる力がつくと思いました。
・日本や他の国の文化を知ることができ,音楽を聴いて想像を膨らませる力を育むことができると思う。

創造力

・音楽を聴いてその情景を想像することで豊かな想像力が身に付く。

表現力

・自分の感じた事を言語化する力。
・音楽は人の心を動かすことができるということを学べ,それを自分で表現できるようになる。
・いろいろな国や地域の音楽に触れ,音楽の壮大さを感じることができ,表現力が豊かになる。

この３年間,まずは音譜の読み方から始め,音楽の諸要素をキーワードに楽譜を読み込んで

いく授業を重ねてきた。そして作詞者,作曲者のメッセージを見つけ出し,教科書には書いてない背景や思いを想像していく授業をしてきた結果,生徒達は自分が感じる以上に音楽のよさを見つけていたのだと驚き,深い感銘を受けた。それはもちろん楽譜を読む学習だけではなく,自分なりに教材研究をして教材にいろいろなエピソードを入れたり,テレビを見ていてこれは面白いという番組を録画して見せたり,自分が実際に足を運んで見たもの,感じたことを言葉や画像で伝えたり,と自分なりに工夫はしてきた。自分が一番大切にしたのは,「自分自身が面白い,興味深い。」と感じたものを伝えることだ。自分が楽しくないことは,生徒も楽しくないと思い,自分自身,授業しながら生徒と共に楽しんでいた。

しかし,楽譜の読み方がわからなかった生徒がいたこと,楽譜を読んでも役に立たなかったと答えた生徒が 20%もいたことは,理由を問うなど原因を分析すべきであり,詰めが甘かったと思う。次は理由を聞いて,今後の課題とし,まだまだ研鑽を積まないといけないと反省している。また,他の学年でも音楽が嫌いという生徒がおり,原因をしっかり探り,自分に向き合っていく必要がある。

４．最後に

今,我々の住んでいる世界はコロナ渦への不安や,平和への不安もあり,心の痛むことが多々ある。自分も,コロナが蔓延する中,どうしても行きたくて不安を抱きつつも誰とも一言もしゃべらないという決意を持って地元で開催されたミュージカルを見に足を運んでみた。生で見るミュージカルは,劇団の方も苦悩の中,でも夢を運び,私たちを元気づけるために心を込めて一生けんめい演技してくださるのが伝わってきて思わず涙がこぼれてしまった。そして,深い感動を覚えている間にいつの間にか心の不安やもやもやが飛んでいて,芸術の素晴らしさを改めて感じ入った。芸術は人々の心を救うと実感した。

子ども達がアンケートに答えているように,音楽はどんな時も人の心を支え,つなげ,豊かにするものである。時には力で訴える戦争より強く強く心に響き,人々を動かす力がある。そんな素晴らしい音楽に携われるこの職業を誇りに思い,感謝したい。そして,これからも未来を担う目の前の子ども達と音楽を楽しみ,味わい,全ての子ども達が心豊かに生きられるよう,そんな授業を目指してこれからも研鑽を積んでいきたい。

文献

・石村光資郎・石村友二郎（2014）卒論・修論のためのアンケート調査と統計処理. 東京図書, 224 pp.
・文部科学省（2017）中学校学習指導要領（平成２９年告示）, 教育芸術社, 165 pp.